

北海道から 岩手県へ

氏名 加藤 大裕

北海道古平町立古平中学校 → 岩手県遠野市立遠野中学校

(期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日)

1 派遣先の学力向上等の取組

○岩手県学習定着度状況調査

岩手県教育委員会では平成15年度より、本調査を県内の公立小中学校で年1回実施。児童生徒一人ひとりの定着状況を把握し、結果の分析により指導上の問題点を各校の授業に反映させ、学力向上を狙うものである。小学校4・5学年、中学校1・2学年で実施している。分析は学校毎、設問毎に行われた上で「調査結果活用レポート」が各学校に返却され、それをもとに更なる指導改善を図っている。

○Gアップシートによる基礎学力の定着

岩手県では、文部科学省 学習指導要領及び国立教育政策研究所 教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）」に基づいてGアップシートを作成しています。学習後、基礎学力を定着させ学力（G）をアップさせるためのプリントになっている。

○遠野市の取り組み

生徒数の減少などの理由から、平成25年度より市内の中学校が8校から3校に再編成されている。平成28年度は、統合時の入学生が3年生になる年度になり、どの中学校も落ち着いた雰囲気になっている。

統合3年間の小中連携の取り組みをまとめ、中学校区ごとに学力向上の課題解決に向けて、小中の教員でテーマを絞って取り組んでいる。また、定期的に小中お互いに授業を公開し合い、意見交流が行われている。

遠野中学校区では、「課題意識の持続するための工夫」をテーマに学力向上に向けて取り組んだ。



地元の郷土芸能「遠野まつり」に中学生が積極的に参加している

■導入の工夫

- ・既習事項の確認を宿題にする。
- ・学習課題を生徒の言葉で作る。

■展開の工夫

- ・ペア学習やグループ学習の工夫。

■終末の工夫

- ・次時につながるまとめと振り返りの実施。



復興教育：S L 銀河鉄道歓迎パフォーマンス

2 北海道に戻って実践したいこと

○数学科の授業改善

■一人一人の生徒に応じた対応

- ・学力に係る徹底的な現状分析を行い、個に応じた習熟度別学習を行う。また、チャレンジテストなどの活用を行う。

■指導過程の充実

- ・「学習課題」の設定の工夫をする。
- ・「振り返り」を行いやすくするための板書の工夫をする。
- ・「生徒による説明」の時間の確保。主体的に学び、考えを深化させる。

○組織的な家庭学習の充実

- ・学校や学年で統一された家庭学習の取り組みを行う。
- ・工夫された良い取り組み例の紹介。
- ・長期休業中の課題の取り組みに対して家庭の協力。